

特別企画 21世紀に 伸びる企業

「切削のプロ」として未来を切り拓く オンリーワンの切削ノウハウで 日本のモノづくり企業をリード 新庄金属工業株式会社

日本の99%を占める中堅・中小企業。特に製造分野においては日本の国際競争力の根拠を支える縁の下の力持ち的存在である。中でも、基盤部分を受け持つサポーティングインダストリーは、自社製品を持つメーカーとは異なり、請負的な仕事のウエートが高いこと

もあり、目立たない存在だった。しかし、中堅・中小企業が持つ技術・性能はもはや大手企業を凌ぐ域にまで達していると言っても過言ではあるまい。

そんな隠れた優良企業の一つが、精密切削加工・アッセンブリー事業において日本のモノづくりの中枢を担う、新庄金属工業株式会社(益山武義社長、資本金3000万円)である。



新庄金属工業株式会社代表取締役社長 益山武義氏(中)
常務取締役 益山利二氏(左)
取締役工場長 益山慶三氏(右)

同社の歴史は昭和37年、益山社長が切削加工所として「新庄金属製作所」を創業したのが始まり。昭和60年に現在の工場に移転し、新庄金属工業を設立した。同社は自動車部品、各種機構部品、またホビー用品などあらゆるジャンルの商品の加工を手掛けている。独自の工法の開発に力を注ぎ、顧客からの設計段階での多彩な検討依頼にも、提案型企業として真摯に対応している。

もともと益山社長は工具商を

通じ松下電器産業関連のサンプルを作っていた経歴もあり、以後、セラミック圧電素子ライターの切削部品の供給に力を入れるようになった。その結果、松下電器からOCDの管理体制が評価され、優良事業場として認められるまでに。昭和47年には、松下電器産業の北海道千歳市への工場展開に合わせて、「切削部品の供給拠点」を担うグループ会社、北新金属工業を設立した。

新庄金属工業では自動車部品やガス機器関連部品、携帯電話のインフラ関係(基地局用)の多品種少量もの、北新金属工業では自動車用ラジエータの水温計のセンサー部品をメインとする量産ものを扱っている。

ネバーギブアップの精神で 24時間365日フル稼働

関西で同社ほど「NC複合加工機」の切削設備が充実している企業は見当たらない。多種少量生産に対応すべく「NC自動旋盤」を導入したのが昭和57年。NC旋盤とはコンピュータ制御された旋盤のことを指す。生産

性・精密性・複合化・省力化の面で著しい特徴を兼ね備えており、「NC複合加工機」と当社独自の切削技術をもってすれば国内外の企業に負けることはない」と益山社長は自信を持って語る。

同社は超微細加工技術を保有しており、0.05mmの製品への切削も可能だという。ここまでは研究所等、試験的に可能な範囲であるが、この超微細加工された製品を量産に安定して、毎月数万本もの数を量産できるところに強みがある。また、以前は注射針メーカーで複数部品を組立していた製品を一体化加工へ、これにより10分の1の価格での提供が可能となった。

「機械メーカーが保障しかねる精度や加工能力を超えることにこそ専業メーカーとしての存在価値があると考えています」(益山利二常務)

しかし、精度が高くなればなるほど、機体温度の変化に敏感で、外気の変化やほんの数分、機械が停止しただけでも寸法や形状が変化してしまう。そこで同社が実行しているのが「24時間365日フル稼働」というシス

テムだ。3交代・休日シフト制を敷き、まさしく「稼働を絶やさない」という徹底した環境整備があるからこそ成せる業である。

現在、11000日以上フル稼働し続けているこの生産システムが基盤となって、顧客企業からは「新庄さんに頼めばなんとかなしてくれる」「新庄さんは絶対にギブアップしない」など、確固たる信頼の証ともいえる言葉が数多く聞こえる。

いい人材にはワケがある

新庄金属工業の人材育成哲学

新たな技術や販路の拡大に挑戦する中小企業をサポートする目的で作られた中小企業経営革新支援法。同社は1度ならず2度にわたって認定授与を受けている稀有な企業である。



製品一覧

1回目が、平成14年、NTTドコモの通信サービス「FOM」における、基地局装置端末とのデータ送受信や、信号処理システム末端の部品加工(精密切削)。今年、MNP制度の導入もあって、再び熾烈な競争が繰り広げられるであろう携帯電話業界において、この技術が脚光を浴びることは間違いない。続く平成16年には、ハイブリッド・カーにのみ搭載されているECB(電子制御ブレーキ)システムの電源バックアップユニットの一部品を製造。新たな直角形状の切削が可能になったポケット加工(特許出願中)やハイブリッド・カーの普及に伴うECBシステムのガンソリ車への搭載も期待され、2度目の認定授与に至った。

しかし、2度にわたる授与に浮かれています



同社スタッフ

いい人材といい資金、いい戦略があればその結果と考えています」ときっぱり言い切る。そしてこの言葉通り、同社は「いい人材」を育成するために並々ならぬ力を注いでいる。今年の年度方針に「考動力」を掲げ、活動には目的があり、例え単純な作業ひとつとっても、目的を持ち、考えて行動するという教育している。

「会社は人が成長するための入れ物といえます」(益山慶三工場長「会社で養った考え方を、家庭においても応用できるほどの論理的思考を培ってもらいたいので、成長した分、社会への貢献もできるのではないかと思います。社員それぞれの人生をバックアップできる会社でありたい、そう願っています」(益山常務)

また、同社には定年がない。70歳を超えてもなお一線級で働く社員もいるという。益山工場長は「技術があるのもったいないから」と明るく語るが、やはりその中でも、人を活かし、目的を失わないことの大切さを感じさせる。

どの業界においても仕事を楽しく行うと上達は早い。従業員に不満があれば、顧客と折衝する際も、自ずと態度に出てしまうもの。従業員が楽しさを持って働いていれば、それは顧客に伝心する。

「顧客が繁栄すれば会社も繁栄し、会社が繁栄すれば社員も繁栄します」(益山常務)

すべてを見据え順応同化 ナンバーワンよりオンリーワン

昨今、社会環境の変化は著しいものがあるが、企業側がいかに柔軟に順応同化できるかが、今後の生き残りへの鍵といえる。順応同化とは、環境・境遇にしたがって適応し、また

他者を感じ化する精神である。高度な技術を手掛くようにしても社会に順応同化できなければ、その製品も役に立つことにはない。「現状・将来性などをすべてを見据えた上での順応同化が必要であり、オンリーワンを目指すことがナンバーワンへの近道です」(益山社長)

今日、悪化の一途をたっている環境問題にも対応すべく「産業廃棄物・電力使用量・騒音レベル・化学物質及び危険物の取扱などの削減」を目的とした環境方針も掲げる同社。平成17年にはISO14001を取得し、さらなる地域社会との共生を図る。こういった面でも時代との順応同化を実践しているのではなからうか。

さらには、創業以来の「品質とは頭であり、顔であり、心である」という品質方針をたて、品質面にもとりわけ重きを置いている。その精神は失敗から生まれる固有技術は明晰な頭脳から生まれ、工程から生まれる品はまさに会社の顔であり、そこで生まれる和の心こそ「信頼」というもの。平成15年にISO9001を取得したが、日頃の業務から創業の精神を守って行動しており、違和感なく取得することができたという。

「一流の人材に育て上げるために、社員には一流の環境・設備を与える。『最高の人材が、最高の環境の中で、最高の製品をつくり、最高の収益を上げる』ことを目指し、日々邁進しております」と語る益山社長。同社の切削技術はまさに創業以来の伝統を受け継ぐ継続力の賜物である。今後も「切削のプロ」として未来を切り拓く姿を追い続けたい。

提供元 新庄金属工業株式会社

本社 大阪府生野区中川東2-14-20
TEL 06-6752-9131
FAX 06-6752-9151